



市内イベントを随時更新中▶十和田市ブログ「駒の里から」
<http://citytowada.exblog.jp/>

▶十和田市写真館 <http://www.city.towada.lg.jp/youkoso/photo/top.htm>

自分たちの街を自分たちの手できれいに 春のクリーン大作戦

4月14日、「小さな親切」運動十和田支部（似鳥広恭支部長）による春のクリーン大作戦が行われ、市民らが中央公園緑地周辺、官庁街通りと太素塚および商店街周辺、十鉄駅ビル周辺の3カ所の清掃活動を行いました。十鉄駅ビル周辺の清掃活動を行った県立十和田工業高校JRC部の中舘朋大さん（1年生）は「普段気付かなかったごみがたくさん落ちていました。清掃活動で地域に貢献できてよかったです」と、話していました。



駅周辺にはたくさんのごみが。ポイ捨ては絶対にやめましょう

地域の消防力強化に向けて 小型動力ポンプ積載車を新規導入

市では、市消防団第4分団第2部中舘屯所に配備されていた車両の老朽化に伴い、新たに小型動力ポンプ積載車を1台導入しました。

3月23日、市消防庁舎で積載車の引き渡し式が行われ、小山田市長より中沢豊美消防団長へ車両が引き渡されました。

今後も、地域防災の要を担う消防団の強化のため、老朽化した車両などの更新を行っていく予定です。



新規に導入された積載車と中沢消防団長、中舘の消防団員ら

ご入学おめでとうございます 市内小中学校で入学式

4月9日、市内小中学校で入学式が行われました。市立切田中学校（太田隆校長）では18人の新1年生が入学しました。

入学式では新入生を代表して高根風花さんが、「勉強や部活をがんばり、立派な中学生になれるよう努力していきたいです」と、誓いの言葉を述べました。入学式の後には対面式が行われ、在校生が「歓喜の歌」を歌うなど新入生を歓迎しました。



新しい学び舎で歌う校歌。どんな学校生活になるのでしょうか？

おいしい十和田を発信 十和田の農畜水産物マッチング交流会

3月21日、サン・ロイヤルとわだで、「十和田の農畜水産物マッチング交流会」が開催されました。この交流会は、十和田産農畜水産物などの販路拡大に向けた商談会として、市内で初めて行われたものです。

当日は、生産者や加工事業者、卸売業者など市内外から約120人が参加し、それぞれ自慢の商品を試食しながら交流を深めたほか、生産者の皆さんが商品を積極的に売り込む姿が見られました。



積極的に商品を売り込む生産者の皆さん

災害に備えて市と企業が協定 災害時の物資安定供給を約束

市と(株)ユニバースならびに(株)スーパーカケモとの間で、「災害時における食料品及び日用品の安定供給等に関する協定」が締結され、4月9日、市役所で調印式が行われました。

調印式で小山田市長は、「災害が発生した時には、両社の協力により可能な範囲で食料品などが供給されることになり、市民が安心して生活できます」と、今後の災害時対応への期待を話しました。

災害時における食料品及び日用品の 安定供給等に関する協定調印式



(写真左から) (株)ユニバースの竹永取締役営業支援部長、小山田市長、(株)スーパーカケモの欠畑代表取締役社長

春の全国交通安全運動に向けて 交通安全総決起大会

4月5日、市民文化センターで春の全国交通安全運動に伴い、十和田地区交通安全総決起大会が行われました。

決起大会には十和田市町内会連合会など約300人が参加。十和田地区安全協会の田島一史会長が「みなさんで交通ルールの遵守を呼びかけ、大事な命を守りましょう」とあいさつしました。また、参加者を代表して滝内建設(株)の野呂美樹さんが、子どもと高齢者の交通事故防止に努めるなど4つの交通安全宣言を行いました。



参加者を代表して交通安全宣言を行った野呂さん(写真中央)



上十三圏域が連携「魅力ある地方」の創出を目指す 十和田市と三沢市が定住自立圏構想共同中心市を宣言

上十三地域8市町村による定住自立圏構想について、十和田市と三沢市が共同中心市宣言を行いました。定住自立圏とは、少子高齢化、人口減少社会への対策として、中心市と周辺市町村の連携により、地域住民の生活機能を確保していく取り組みです。2市連盟共同中心市となる「複眼型」は全国で4番目、東北地方では初となります。

3月29日、市役所で行われた宣言式には、両市のほか圏域を形成する上十三8市町村（七戸町、六戸町、野辺地町、六ヶ所村、東北町、横浜町）が出席しました。

両市は、圏域が連携・協力し、互いの特性を生かし安心して活力ある地域づくりに積極的に取り組むことなどを宣言。共同中心市を宣言後、小山田市長は「この共同中心市宣言を皮切りに、広大な上十三地域の地域性も考慮しつつ、できることから着実に連携して定住自立圏構想を推進していきたい」と、決意を述べました。

今後、平成24年度を「定住自立圏形成の年」、25年度を「実施初年度」と位置付け、圏域市町村と連携し▶生活機能の強化▶結びつきやネットワークの強化▶圏域マネジメント能力の強化の3点を中心とした定住自立圏を推進していく予定です。



宣言書を手を固く握手をする(写真左から)小山田市長と三沢市長



連携して地域の活性化に取り組む上十三8市町村